

2017年12月4日(月)

明治学院大学 2017 年度アジア神学セミナー 秋学期第 9 回

「宣教師と日本の初期キリスト者たちの関係」

旧日本基督教会を事例として

中島耕二

1. プロテスタント・キリスト教の東洋伝道開始

- ・18 世紀のイギリス、産業革命・経済の発展、東洋進出、福音主義運動・信仰復興運動（リバイバル運動）
- ・18 世紀末のイギリスにおいて海外伝道団体が設立される

1792 年 バプテスト伝道会（Baptist Missionary Society）設立

☆1793 年 東洋伝道最初の宣教師ウィリアム・ケアリー（William Carey）をインドに派遣

1795 年 ロンドン伝道会（London Missionary Society）設立

☆1807 年 ロバート・モリソン（Robert Morrison）アメリカ経由清（中国）に出発、寄港したアメリカで大歓迎を受け、アメリカの海外伝道熱を高める

- ・アメリカにおける海外伝道組織の成立

ロバート・モリソンの影響により、1810 年にアメリカ最初の海外伝道組織アメリカン・ボード（American Board of Commissioner for Foreign Mission）が創立。当初は超教派、のちに会衆教会中心となる。

☆1837 年米国長老教会海外伝道局設立（1841 年へボン博士夫妻アジア伝道に出発）

- ・1800 年代はアメリカの「膨張の時代」、1820 年～1840 年は高度成長期 → 国内・海外伝道も盛んになる
- 1775 年 独立前の 13 州植民地は 120 万平方キロ（現在の日本 38 万平方キロ） 人口 250 万人
- 1853 年 782 万平方キロ（現在の日本の 20 倍の国土に膨張） 人口 2,000 万人を超える

2. 日本の開国とキリスト教宣教師の来日（カトリックは再渡来）



(1) ペリー艦隊旗艦・ポーハタン号



(2) ペリー提督

- ・1837 年 7 月 31 日 モリソン号 S・W・ウィリアムス乗船浦賀沖投錨、砲撃を受ける「モリソン号事件」
- ・1854 年 3 月 31 日（安政元年 3 月 3 日）日米和親条約（神奈川条約）締結 ペリー提督
- ・1856 年 8 月 21 日 タウンゼント・ハリス（Townsend Harris）総領事として下田着任

- ・1858年7月9日（安政5年6月19日）日米修好通商条約締結、安政の5カ国条約…不平等条約

7か所の外国人居留地 設置を約す… 箱館、新潟、江戸（開市場）、神奈川、大阪（開市場）、兵庫、長崎

第8条 日本ニ在ル亜米利加人自ラ其国ノ宗教ヲ念ジ礼拝堂ヲ居留場ノ内ニ置モ障リナシ
並ニ其建物ヲ破壊シ亜米利加人宗法ヲ自ラ念ズルヲ妨ル事ナシ亜米利加人日本人ノ堂宮ヲ
毀損スル事ナク又決シテ日本神仏像ヲ^{コボツ}毀ル事アルベカラズ双方ノ人民ニ宗旨ニ付テノ争論
アルベカラズ日本長崎役所ニ於テ踏絵ノ仕来ハ既廢セリ

☆ハリスは元来貿易商人であったが、教育事業に熱心でかつ敬虔な監督教会（聖公会）信徒。ニューヨーク市立大学を創立。通商条約締結後、上海の監督教会ミッションに宣教師派遣に関する書簡を送付。

「日本人は礼節を重んじ、清潔で英明な国民であるから、宣教師を送るに当たっては、信仰心が篤いだけでなく、博識の人格者で、かつ教育・医療の奉仕に殉じることのできる者のみを送ること」（中西道子『タウンゼンド・ハリス』有隣新書、1993年 196頁）

- ・1858年9月、長崎に滞在中のアメリカの3人の教職者、S・W・ウィリアムス（この時は米国艦隊付き中国語通訳。本来はアメリカン・ボード在中国宣教師で長老教会員）、H・ウッド（米国艦隊ポーハタン号付牧師でオランダ改革教会員）およびE・W・サイル（監督教会在中国宣教師）は、連署して来年の条約の実効に向けて、それぞれの所属する教会の海外伝道局に日本への宣教師派遣を促す勧告書を発信した。

S・W・ウィリアムスの提言「余の思うには伝道の最も有望なる開始方法は、長崎又は江戸に一宣教師が居住して、日本青年に英語を教えることなり。…而して該宣教師の伴侶として一医師が加へられ、日本人を診療しつつ時に医薬の方法を教えるならば、而して兩人とも靈魂を深く愛して人を基督に導くことに熱心ならば必ず成功すべし。…宣教師に選ばるる人は忍耐、温和、倦まざる親切と、学問的傾向ある者たるべし。余はミッションが今後取らんとする経過と方法とを非常なる興味と同情とを以て見んと欲する者なり」（1858年9月30日付S・W・ウィリアムスからE・W・サイル宛て書簡。松平惟太郎『日本聖公会百年史』1959年 10～11頁）。

<初代プロテスタント宣教師の来日>

- ・1859年5月 米国監督教会（米国聖公会）J・リギンス（John Liggins）前任地の中国から長崎へ
- ・1859年6月 同 C・M・ウィリアムス（Channing Moore Williams）前任地の中国から長崎へ
- ・1859年10月17日 米国長老教会宣教師J・C・ヘボン（James Curtis Hepburn）夫妻 アメリカ東海岸（ニューヨーク）から神奈川沖へ到着、神奈川宿浄土宗成仏寺に居住

☆ヘボンの友人銀行家キルマン氏夫人「日本の宣教は大切には相違ない、第一流の人物をも必要であろう。しかしヘボン氏ほどの高潔堪能な紳士を送る必要が果たしてあるだろうかと疑わざるを得なかった」（『植村正久と其の時代』第一巻 p258）。

・1859年11月1日 米国オランダ改革教会宣教師 S・R・ブラウン (Samuel Robbins Brown)、D・B・シモンズ (Duane B. Simmons) アメリカ東海岸から神奈川に到着

・1859年11月7日 同上 G・F・フルベッキ (Guido H. Fridolin Verbeck) アメリカ東海岸から長崎へ



(3) 来日前のヘボン



(4) 成仏寺のヘボン、ブラウン、ゴープル家族



(5) ブラウン

・1860年3月 ヘボン夫人クララ、成仏寺で5人の日本人少年らに英語を指導 → 禁制下学校を伝道手段に

・1861年11月11日 米国オランダ改革教会ジェームス・H・バラ (James Hamilton Ballagh) 来日

・直接伝道は不可 …日本語習得、和英辞書編纂、医療奉仕、聖書翻訳、公私の学校英語教師となり、学校教育を通してキリスト教の布教を計画

・1862年秋 ヘボン、幕府委託生9名に英語指導 (大村益次郎、原田一道等) 日本人学生の西洋科学知識の高さにヘボン博士は仰天する → ヘボンの公平な人物評価の姿勢が読み取れる

・1863年5月17日 米国長老教会D・タムソン (David Thompson) 来日

・1863年秋 横浜外国人居留地39番ヘボン塾開塾、クララは英語、ヘボン博士は医学生を教える

生徒：林^{ただす}董 (初代英国大使、外務大臣)、高橋是清 (日銀総裁、大蔵大臣、総理大臣)、益田孝 (三井物産、日経新聞社設立)、三宅秀 (東京大学医科大学長、初代医学博士)、早矢仕有的 (洋書の丸善設立)、沼間守一 (自由民権家、東京府議会議長)、佐藤百太郎 (百貨店創始者) 等



(6) 若き日の高橋是清



(7) 英国公使・大使 林董

☆ヘボン塾に学んだ初期生徒たちからは、禁教下でもありクリスチャンは生まれなかった

・1864年7月 神奈川奉行所立横浜英学所 教師：タムソン、ブラウン、J・H・バラ夫妻、ヘボン夫妻

学生：大鳥圭介 (幕臣、学習院長、貴族院議員)、谷田部良吉 (東大教授)、星亨 (駐米公使、逓信大臣、衆議院議長)、安藤太郎 (ハワイ総領事、のち受洗)、栗津高明 (受洗、海軍兵学寮英語教授) 等

3. 旧日本基督教会につながる米国長老教会・米国オランダ改革教会宣教師の伝道活動

まだキリシタン禁制の高札が建つ1861年にアメリカ・オランダ改革教会の宣教師ジェームス・ハミルトン・

バラ (James Hamilton Ballagh, 1832~1920) が来日し、横浜居留地で英語塾 (バラ塾、聖書の研究も行う) を主宰、1863 年に来日したアメリカ長老教会の宣教師デビット・タムソン (David Thompson, 1835~1915) もこの塾を中心に伝道活動始める。

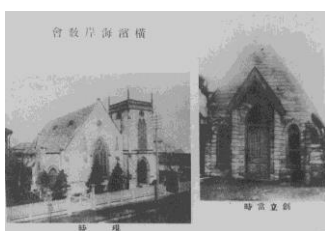


(8) 壮年の J・H・バラ



(9) デビット・タムソン

- ・1865 年 11 月 5 日 成仏寺鍼灸医でブラウン、バラの日本語教師を務めた矢野隆山がバラから洗礼を受ける
- ・1868 年 4 月 栗津高明 (元膳所藩士) および鈴木貫一 (彦根藩士) がバラから受洗
- ・1869 年 2 月 鈴木鉦次郎 (宮津藩士)、鳥屋たい (老婦人)、小川義綏 (元幕臣) がタムソンから受洗
- ・1871 年、バラ宣教師は自宅に隣接した横浜居留地 178 番地に、外国人の祈禱会や日本人の英語・バイブルクラス用の小さな会堂 (バラ会堂と呼ばれた) を建てる。



(10) バラ会堂と横浜海岸教会



(11) 現在の横浜海岸教会

1872 年の年頭、外国人信徒の祈禱会を見ていたバラ塾の英学生たち (ほとんどが武士の子弟たち) 20~40 人が、自分たちも祈禱会を持ちたいとバラに申し出る。この集会に出席していた 9 名の青年と 2 名の中年男性が、信仰を告白してバラに洗礼を受けるように求める。

1872 年 3 月 10 日、11 名の受洗者によって、日本で最初の日本人教会がバラ会堂で創立される。

この教会は^{ヤソ}耶蘇公会、横浜公会そして日本基督公会と呼ばれ、1875 (明治 8) 年に横浜海岸教会と改称した。日本人の牧師はまだいないので、J・H・バラが仮牧師に就任。教会信条は簡易信条を採用。

竹尾忠男 (元幕臣)、篠崎桂之助 (元幕臣)、安藤劉太郎 (僧侶・間者)、櫛部漸 (松山・医師)、押川方義 (松山藩)、吉田信好 (松山藩)、佐藤一雄 (津藩)、戸波捨郎 (津藩)、大坪正之助 (小川義綏夫人の弟)、小川義綏 (元幕臣)、仁村守三 (肥前・間者)

4. 第 1 回プロテスタント在日宣教師会議

1872 年 9 月 20 日~25 日の間、横浜居留地 39 番のヘボン博士邸で開催。

第 1 回在日宣教師会議：

アメリカ長老教会… ヘボン、タムソン、カロザース、ルーミス、ミラー

アメリカ・オランダ改革教会… ブラウン、フルベッキ、J・H・バラ、ウオルフ、スタウト
 アメリカン・ボード… D・C・グリーン、ギュリック、デービス、ベリー、ゴードン
 その他、宣教師夫人、E・W・サイル、グリフィス、在上海の聖公会宣教師ネルソン、日本人キリスト者等
 が出席し、以下の議題について討議が行われた。

- ・聖書の翻訳共同委員の選出
- ・伝道方針の決定
- ・教派によらない合同教会の建設（超教派主義＝公会主義）…議場は意見が分かれたが採択



(12) 横浜居留地 39 番のヘボン博士邸



(13) 現在のヘボン邸後（記念碑）

この会議の決議に従い、横浜公会は公会条例を制定（公会条例第二条例「公会の基礎」）。

我等の公会は宗派（教派）に属せず。ただ主イエス・キリストの名に依て建る所なれば、単に聖書を標準とし、是を信じ、是を勉むる者は、皆是キリストの僕、我等の兄弟なれば、各中の各員全世界の信者を同視して一家の親愛を尽くすべし。是故にこの会を日本基督公会と称す。

日本基督公会（横浜海岸教会）には、のちに日本のキリスト教界やキリスト教教育界のリーダーになる人材が多数集まった。

篠崎桂之助、栗津高明（海軍兵学寮英語教授）、本多庸一（青山学院長）、押川方義（東北学院長）、井深梶之助（明治学院総理）、植村正久（牧師）、奥野昌綱（牧師）、小川義綏（牧師）など。



(14) 第2代明治学院総理 井深梶之助

1854年7月4日、会津藩学校奉行知行550石、井深宅右衛門の長男として会津若松城下で生まれる。伯父は会津藩家老西郷頼母。戊辰戦争に参戦。一歳年齢が足らず白虎隊に入隊できず、藩主松平容保の小姓として、若松城に籠城し敗戦。明治維新後藩の留学生として上京。のち横浜で修文館に学び、S・R・ブラウンから英語とキリスト教を学ぶ。

1878年東京一致神学校卒業後、麴町教会牧師兼東京一致神学校助教授・教授となる。宣教師の数多くの神学書の翻訳をする。1887年明治学院神学部教授、1890年アメリカ、ユニオン神学校留学。1891年～1921年明治学院第

二代総理。1911年～1915年基督教教育同盟会理事長。1940年6月24日召天、享年85歳。



(15) 本多庸一



(16) 押川方義



(17) 植村正久

5. 初期日本人キリスト者の出自に見る特徴（横浜バンドと呼ばれる）

奥野昌綱 … 幕臣

小川義綏 … 幕臣

篠崎桂之助 … 幕臣

井深梶之助 … 会津藩上級武士の子

植村正久 … 幕臣（上級旗本の孫）

本多庸一 … 津軽藩上級武士の子

押川方義 … 松山藩士の子

6. 井深梶之助の入信の動機 … 篠崎桂之助の影響

井深梶之助懐旧談「一日同君（篠崎桂之助）と散歩をしていると、彼が徳川幕府が崩壊したのは、君、天の聖旨だねえ、と如何にも感慨深げにいうので、会津出身の自己は、大いに驚かされた。日頃、無念といおうか、遺恨といおうか、この一事だけは夢寝の間にも忘れ難くあったので、思いもうけぬこの一言を、然かも旧幕臣である彼の口から聞くであろうとは。しかし、平素彼の信仰に対し少なからず敬意を払っていたので、また、忽ちにして、なるほど左様でもあろうかと、宛ら天来の声に接したらんように覚えて、その時以来、この問題に関する限り、胸中一物のわだかまりもなく、平静になった…ことほど左様に強く友を動かした」

「篠崎桂之助は旧幕の人で静岡の産、自己より三つ四つ年上であった。平山省齋の門人で、漢学の力があり、漢文の聖書をよく読んだ。熱心な人であったから、この人の祈祷は他を動かした。惜し可し、二十五歳を一期として、肺患で築地のフォールズ博士の病院にて逝いた」

7. その後のS. R.ブラウン博士とブラウン塾の開設

・1869年8月27日 再来日。この時、ミス・メアリー・キダー（フェリス女学院創立者）を同行した。

- ・1869年10月6日 新潟英学校教師として横浜出発し新潟へ、年俸3,000ドル
- ・1870年6月30日 新潟英学校教師辞任、7月6日 新潟出発し横浜に戻る
- ・1870年9月11日 神奈川県立修文館教師（校長格）生徒32人でスタート
生徒：小野梓（自由民権家、早稲田大学設立）、中浜東一郎（ジョン・万次郎長男、東京衛生研究所長）、都築馨六（外務次官、枢密顧問官）、前田利嗣（旧金沢藩主）、松平定敬（旧桑名藩主）、松平定教（旧桑名藩主）、駒井重格（東京高商校長、専修大学設立）、川俣英夫（烏山藩、教育者）、大関増勤（旧黒羽藩主）、佐久間信恭（札幌農学校三期生、五高教授）、佐藤昌介（札幌農学校一期生、北大総長）、宮部金吾（札幌農学校二期生、北大教授）、植村正久（明治学院教授、富士見町教会牧師）、押川方義（東北学院長）、井深梶之助（明治学院長）、白石直治（東大教授）等
☆札幌農学校一期生はウィリアム・スミス・クラーク博士（少年よ大志を抱け）に出会う前にブラウンからキリスト教の教えを受けていた。
- ・1872年3月10日 日本基督公会が創立される
- ・1873年8月1日 横浜修文館との契約3ヶ年が終了したので教師辞任。松平定教から続けて教えを受けたという申し出を受ける。
- ・1873年9月 ブラウン塾（横浜山手）を開く ← ジェームス・H・バラ塾生徒合流
当初は英語塾であったが、1875年頃から神学塾に変わっていった。
教師：次女のハティ・ブラウン、姪のハリエット・ウイン、E・R・ミラー、アメルマン
生徒：白石直治、島田三郎（衆議院議長）、前田利嗣、松平定教、駒井重格、植村正久、押川方義、井深梶之助、本多庸一（青山学院長）、柳本通義（札幌農学校一期生）、藤生金六（自由民権家、牧師）、雨森秋成（教育者・事業家）、山本秀煌（牧師、明治学院教授）、熊野雄七（明治学院幹事）、奥野昌綱（牧師）等
- ・1877年10月、ブラウン塾は東京一致神学校として発展的解消となる。

8. 長崎居留地とフルベッキの伝道活動

- ・1866年 佐賀藩家老村田若狭守政矩、弟の綾部恭への授洗
- ・幕府立済美館教師、佐賀藩致遠館教師：生徒 大隈重信（総理大臣、早稲田大学創立）、副島種臣（外務卿）、中野健明（神奈川県知事）、中島永元（三高校長、貴族院議員）、日下部太郎（ラトガース大学留学生）
岩倉具定・岩倉具経兄弟（岩倉具視の息子）等、後の幾多の明治新政府要人を指導。



(18) フルベッキ



(19) 長崎時代のフルベッキ親子と教え子たち

9. 築地居留地の開市と米国長老教会ミッション

- ・築地居留地開設 …文久元年11月2日(1862年1月1日)の約束 → 幕末騒動で遅延
明治元年11月19日(1869年1月1日)明治新政府によって実施
- ・1869年7月27日、カロザース(Christopher Carrothers)夫妻来日、横浜でヘボン塾を手伝った後、10月に東京に移り築地ホテルに滞在、築地南小田原町の日本家屋を改築して居住。英語塾を開く。生徒：井澤修二(東京音楽学校長)、川田順吉(英学者)、千村五郎(英学者)、加藤九郎(新聞記者)、瓜生外吉(受洗海軍大将・永井繁子の夫)等 → 東京で最初のミッション・スクール(明治学院の源流の一つ)
- ・1870年6月2日(明治3年5月4日)、第1回競貸6番375坪1,000ドルでタムソンとカロザース名義で落札、23番1号336坪 タムソン名義で落札
- ・6番A宣教師館：カロザース夫妻住居、6番B宣教師館：タムソン住居、後ヤングマン住居



(20) カロザース



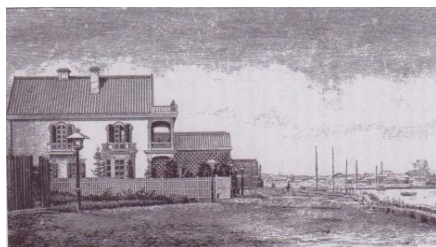
(21) 夫人ジュリア



(22) ヤングマン

- ・1871年12月、岩倉使節団米欧回覧出発(もともとフルベッキから大隈重信への提案)
- ・1872年3月、カロザース夫人ジュリア女学校始める(女子学院の源流の一つ)
かたわら福沢諭吉の長男一太郎、二男捨次郎に毎朝一時間英語指導。
カロザースは慶應義塾教員に英語指導。後に慶應義塾最初の外国人教師を務め、寺子屋風であった慶應義塾のカリキュラムをアメリカのカレッジに倣い近代化を進める。→ 功績大
慶應義塾の生徒：後藤牧太(高等師範学校教授)、門野幾之進(慶應義塾教頭、千代田生命社長)、高嶺秀夫(高等師範学校校長)、朝吹英二(三井重役)、加藤木重教(受洗、電友社長)、四谷純三郎(慶應義塾教授)、瀬谷鉞三郎(受洗、慶應義塾教授) → 午前中カロザースに英語を学び、その足で慶應義塾

に出講し午後、習った内容を生徒に教えていたと言う。その他に自由民権運動指導者の植木枝盛が頻繁に通いキリスト教を学ぶ。



(23) 築地居留地6番A 宣教師館



(24) 6番B 宣教師館

- ・1873年2月24日 切支丹禁制の高札撤去 …キリスト教の黙認となり、以降宣教師が大挙して来日
- ・1874年3月 スコットランド一致長老教会宣教師来日、フォールズ築地病院開設、指紋研究で著名
- ・1874年初夏 カロザース、築地大学校設立（新湊町四丁目）洋学一般、法律学、医術を教授

教師：米国長老教会宣教師：カロザース、タムソン

スコットランド一致長老教会：デビットソン、フォールズ（宣教医）、ワデル、パーム（宣教医）

生徒：都築馨六、尾崎行雄（東京市長）、真野文二（九大総長）、戸川安宅（残花、日本女子大教授、作家）、原胤昭（社会事業家）、鈴木舎定（自由民権家）、長田時行（同志社教授、牧師）、戸田欽堂（政治小説家、大垣藩主兄）、増田増三（横浜の大実業家）、松本源太郎（学習院女学部長）、赤壁二郎（北海道部長）、石原保太郎（牧師）、田村直臣（牧師）、渡辺信（教育家）、斎藤岑雄（日本鉄道主事）等 → カロザースの伝道成果。生徒のほとんどがクリスチャンになっている

- ・1875年1月、長老教会六番神学校開設：教師にカロザースおよびO.M.グリーン、のちにカロザースに代わりインブリー

10. 明治学院の経営母体（協力ミッション）の合同 … 同じ長老制を取る三つの教派が合同

☆米国長老教会（The Presbyterian Church in the U.S.A.）1859年初代宣教師来日

関係する学校：明治学院、北星学園、北陸学院、女子学院、大阪女学院、梅光学院

☆米国オランダ改革教会（Dutch Reformed Church in America）1859年初代宣教師来日

関係する学校：フェリス女学院、明治学院、梅光学院

☆スコットランド一致長老教会（United Presbyterian Church of Scotland）1874年初代宣教師来日

- ・1877（明治10）年10月3日、長老教会政治を採る三つのミッションが合同し、日本基督一致教会（1890年に日本基督教会と改称）を創立。この教会に日本人教職者（牧師）を送り出すために、三つのミッションの神学校・塾を統合して、10月7日築地居留地6番の会堂に東京一致神学校を設立。

専任教授：アメリカ長老教会：ウィリアム・インブリー教授

アメリカ・オランダ改革教会：ジェームス・L・アメルマン教授

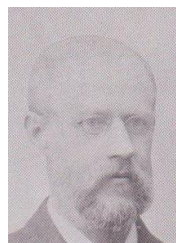
スコットランド一致長老教会：サムエル・G・マクラール教授



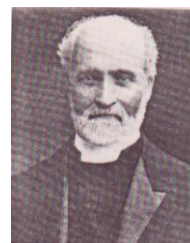
(25) インブリー



(26) インブリーと神学校一期生 (明治11年)



(27)アメルマン



(28)マクラール



(29) 築地居留地17番A 東京一致神学校

11. 初期日本人キリスト者たちに関する定説への異論

山路愛山「現代日本教会史論」『基督教評論』（警醒社書店、1906年）

試みに新信仰を告白したる当時の青年に就て其境遇を調査せよ。植村正久は幕人の子に非ずや。彼れは幕人の総てが受けたる戦敗者の苦痛を受けたるものなり。本多庸一は津軽人の子に非ずや。維新の時に於ける津軽の位地と其苦心とを知るものは誰れか彼れが得意ならざる境遇の人なるを疑ふものあらんや。井深梶之助は会津人の子なり。彼れは自ら国破山河在の逆境を経験したるものなり。押川方義は伊予松山の人の子なり。松山も亦佐幕党にして今や失意の境遇に在るものなり。新信仰を告白して天下と戦ふべく決心したる青年が前ひも揃ふて時代の順朝に掉すものに非ざりしの一事は当時の史を論ずるもの注目せざるべからざる所なり」

<東京一致神学校一期生、30名>

井深梶之助（明治学院 2 代総理）、植村正久（富士見町教会牧師）、田村直臣（京橋教会牧師）、石原保太郎（新栄教会牧師）、山本秀煌（横浜指路教会牧師）、北原義道（日本橋教会牧師）、三浦徹（両国教会牧師・永井智雄祖父）、服部章蔵（下関教会牧師）、瀬川浅（長崎教会牧師）等々教会・教界の指導者多数

出自：士族 22 人、仏僧 1 人、村医 1 人、商人 1 人、豪農 3 人、不明 2 人 合計 30 名

士族 22 人の出身藩： 佐幕側 8 人、朝廷側 11 人、大勢傾心 3 人 合計 22 人

以上